

20 建第 432 号

平成 20 年 10 月 16 日

国土交通省道路局長 殿

香川県東かがわ市

市長 藤井秀城



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたしますので、よろしくお願いいたします。
します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点・要望や提案など

様式①

香川県東かがわ市

道路は、社会・経済活動を支える社会基盤であることから、各自治体では、地域の発展のために重点的に道路網の整備を進めてきたところである。

しかし、車社会の進展に伴い交通量が急激に増加したことで、新たに渋滞対策や交通事故対策等の課題が生まれ、国においては、既設国道の改良・改修と併せて、高速道路や国道バイパス等の高規格幹線道路の整備等を計画的に進められている。

これらの整備計画により、通過交通と日常交通が分離されたことなど整備区間においては、その効果は着実に表われているが、まだまだ未整備区間の多い地方にとっては、今回の道路特定財源の一般財源化による影響を受けることで、さらなる道路整備の遅れ等を危惧している。

今後の道路行政にあつては、整備後数十年を経過した施設が多くなり、車道幅が狭い道路も多く通行の安全等から考えても、近年の基準に合った改修・改善が必要となってきた。また、経年による老朽化した道路橋も急速に増大しており、橋梁の長寿命化及び修繕・架替えについても、近々に取り組まなければならない大きな課題となっている。その他、歩行者の安全という面では、既設道路の歩道の設置率は低い状況であり、設置されている歩道も幅員が狭く、しかもバリアフリー化への配慮が十分とはいえない状況からその対策が求められている。

本市は、地形的に新設道路の整備に限界があることから、既設の道路を改良・改修、舗装整備等を行うことによって、前述のような点を考慮しつつ、利用者にとって安全で利便性の高いものとして活用することが望まれる。これらの生活道路の整備も、昨今の道路特定財源の一般財源化等に見られるように、厳しい財政事情の中での対応であり、当然、優先順位によって計画的な整備が必要である。

また、地方の高速道路や国道バイパス等の高規格幹線道路の整備状況については、未整備区間の早期整備は言を俟つまでもなく、整備区間においても地域によっては区間のほとんどが2車線の暫定供用という状況から、交通量の増加とともに交通事故等による交通渋滞、一時通行止め等が多く発生しており、本来の機能である「高速性の確保」や通行の安全・円滑化の機能が十分果たせておらず、早期の4車線化が望まれる一方、その利用促進を図るという点では、料金の割引制度等、弾力的な料金施策について引き続き推進していくことが必要であると考える。

さらには、危機管理として道路は欠かせないものであり、特に災害等による機能不全の際に、それを補完する道路の整備充実、その他踏切の拡幅改良の弾力化等、まだまだ地方の道路行政に対する問題が山積しており、それらの財源措置についても今後の大きな課題である。

その財源措置の一つとして地方道路整備臨時交付金制度がありますが、この制度についても道路特定財源問題の影響を受けて先行き厳しい状況にあります。地方自治体の実情を十分考慮していただき、本制度の存続についても強く要望するものである。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式②

香川県東かがわ市

○現状

海岸部を通る国道と山間部を通る主要地方道が本市で国道１本に合流することから、各所で渋滞が起こっている。現在、解消に向けて、既設道路に右折車線の設置や高速道路や国道バイパス等の事業が進められている。

一定の整備により、慢性的な渋滞等は減少しているものの、本市は、山と海が接近している平野部の少ない地形から、複数の幹線道路の整備は困難であり、危機管理・通行の安全等も考えた場合は、暫定供用でなく完成形での整備により充実を図ることが必要だ。

また、既設道路や橋梁の老朽化や整備後数十年の経過により規格に合わない道路が多くなっており、これらの改良、改修等が求められている。特に舗装は経年劣化がほとんどの路線で進んでいることから、利用者である住民のニーズが強く、通行の安全という見地からも早急な改修が望まれる。

さらに歩道の設置状況は、道路延長の僅か５％と低い設置率で、しかも幅員は狭くバリアフリーの配慮が十分でない。

一方、防災面での道路状況を見ると、近年では、平成１６年の台風２３号の大雨時に国道等の主要幹線道路において冠水や崩壊による通行止め等が発生しており、これを補完する道路整備の遅れから、交通機能が一時麻痺した。

○課題

まず、山と海が接近している平野部の少ない本市にとっては、地形から考えても複数の高規格幹線道路の整備は困難であると考ええる。したがって、限られた路線で危機管理面や通行の安全性等も考えて、整備効果をいかに発揮するかが課題ある。そのためには、暫定供用でなく完成形（４車線化）での早期整備が望まれる。

また、日常生活に必要な既設の道路や橋梁においては、経年による老朽化が進んでおり、利用者の通行の安全等を確保するためには、早期に改良や改修といった対策の必要な路線が多くなっている。毎年、膨大な費用を投じているものの、まだまだ改善されていないのが実情である。厳しい財政事情の中ではあるが、有利な事業手法を検討しながら優先順位をもって計画的に整備を進める事が求められる。

歩行者の安全という点については、歩道等の設置も考えられるが、旧市街地や住宅地などの幅員が狭く住家が隣接している道路は、施設の設置や拡幅等が困難であるという悩みを抱えている。

いずれにしても、事業を進めるに当たっては、関係者の理解と協力が必須であるとともに道路財源の確保ということが、今後における道路行政の大きな課題である。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指す将来像

様式③

香川県東かがわ市

高松自動車道及び国道バイパスの整備によって、今後、地域の道路事情は大きく変わるが、これらを有効利用するには、地域の観光資源・産業及び住民生活に結びついた地域道のネットワークの構築やアクセス道路の整備が求められる。

渋滞対策としては、地形及び沿道の状況から国道１１号の改良のみでは全体的な渋滞解消は困難であり、国道バイパスの整備が進められることにより通過交通と生活交通が分離され、渋滞解消による利便性が大きく向上する。

また、今後は防災、バリアフリー、景観等に配慮した事業を進める必要があるが、予測しがたい自然災害に対しては、ハード面で対応するには限界がある。起こり得る事態を想定して、いかに相互に補完し合えるか、危機管理の組織と情報システム及びネットワークの整備・訓練にも力を注ぐべきと考える。

交通安全面では、従来の狭く段差のある自転車歩行車道のバリアフリー化及び拡幅により安全確保を図り、利用者が安全で安心して通行できる空間とするために、関係機関等と地域が一体となって安全対策に努めることが肝要である。

さらには、地元ボランティアの活用、関係する地域住民の意識向上による維持管理を進めことも必要であると考え。

最後に、道路が、単に車両の通行に便利という機能面だけでなく、景観・文化的価値の面から考えるならば、全てを新しく整備するよりも、古いものを大切に保存して機能面をある程度セーブする考えも大切である。いずれにしても、道路を多機能かつ有効に利用するためには、１地域の問題にとどめることなく、国、県、地方等の関係機関が連携しながら整備を行うことが求められている。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④

香川県東かがわ市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市交通の快適性、利便性の向上	○代表事例 高速道路のバスストップを、既設の公園と一体となる整備を行った。 この整備の基本的な考え方は、利用者の利便性を最優先とし、バリアフリー化への配慮と共に、パークアンドバスライド、キスアンドスライドに対応したものとした。 また、待合室には、自動販売機やトイレなどを備えた施設として整備した。	○期待する効果や評価等 通常、本線上に設置されている高速バス停と一般道路との間には高低差が生じるが、公園と一体整備により高低差がなくなり、階段等の上下がなくなるなど乗降の利便性が向上した。 また、主要駅からの公共交通も使った乗り換えも便利で、さらには、公園利用者と共通で利用できる無料駐車場なども設置されており、パークアンドバスライドとしても利用者の利便性が向上し、高速バスの利用促進につながっている。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	主要駅から国道間の県道整備に併せて、駅前及び駅周辺整備として駅前ロータリーや公共交通機関利用者のための駐輪場等の整備を進めている。 ／ 国道のバイパス整備推進	狭い道路の拡幅及び暗いイメージの駅前を整備や駐輪場を整備することで、駅前に開放感が生まれ、環境改善等による安全・安心のまちづくりと市民の利便性の向上が図れる。 また、本駅の整備は、今後、高速バスストップとの交通連携という効果も期待できる。 主要な幹線道路が、国道1本という状況の中で、それを補完する道路が整備される事により、通行の安全と共に、水害等の災害に強いまちづくりが推進される。	